

日時	令和2年7月14日（火）				
会場	国際交流センター会議室				
出席者	委員：10名（欠席委員3名）、事務局：企画経営課長他4名、傍聴：1名				
<p>【当日配布資料】</p> <p>資料1 グループでの話し合いについて</p> <p>資料2 ワークシート完成形イメージ</p>					
<p>【記号について】</p> <table border="1"> <tr> <td>・</td> <td>委員の発言</td> </tr> <tr> <td>→</td> <td>事務局の発言</td> </tr> </table> <p>【議事内容】</p> <p>1 開会のあいさつ（坂本座長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の円卓会議では初めてワークショップを行う。意見を紙に書き出すことにより、目標や課題が可視化される。コロナ禍で人と話す機会も減り、ストレスに感じている人もいると思うので、ワークショップをやったことがない人も、自由に発言して、楽しんで取り組んでほしい。 <p>2 委員からのスピーチ及び質疑応答 呉委員の紹介（15分程度）</p> <p>3 ワークショップ</p> <p>→第2回会議において、第11期では多文化共生センター（仮称）についてのイメージ作りをしたいとお伝えしたが、今回からいきなりセンターの機能などについて話し合うことは難しいと思うので、今回と次回でテーマを設定した。まず、今回は「自分が住みたい多文化共生のまち（三鷹は〇〇なまち）」をテーマにワークショップを行いたい。そもそも多文化共生とは、国籍や年齢、性別、文化など、様々な違いがある人たちが、お互いに理解し、認め合いながら同じまちのメンバーとして生きていくこと。それを実現させるまちとはどんなまちなのかをテーマにしていきたい。</p> <p>ワークショップなので、遠慮せずに、思いついたアイデアをどんどん出していただきたい。</p> <p>（ワークショップの進め方及びルールの説明）</p> <p>～ワークショップ（50分程度）～</p> <p>4 発表</p> <p>Aチーム 目指すまち「ちょうどよいふるさとみたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な要素は主に3つあり、①交流文化、②包容性・ふれあい、③安全・安心 ・三鷹市は都心でもないし、田舎でもない、公園、農地もあり、色んな経験ができる。 ・色んな人がいても安全に住める。夜一人で歩いていても安心して歩ける。 ・今後、国際キャンプや世界の食べ物、映画等を楽しめるといい。 ・「アニメの町」秋葉原から総武線で三鷹行きに乗るとジブリ美術館に着くので、象徴的な感じがする。そこから文化の交流が生まれる。 ・ワークショップ中に何度も「ふるさと」という言葉が出てきた。住んでいる人も外から来た人もふるさとと思えるようなまち。 ・地理的にも文化的にも豊富で、都心でもない田舎でもない「ちょうどいい」という言葉がふるさとであり続けるためには大切。 		・	委員の発言	→	事務局の発言
・	委員の発言				
→	事務局の発言				

質問 発表の中で求同存異という言葉が使われたがどういう意味か？

・中国の言葉で、同じところを探し求めて、異なるところは認めること。色んな国や家庭で、個性も文化の異なる所もあるが、お互いを受け入れて、共存し続けるという意味。多文化共生ときいて、頭に浮かんだ。

Bチーム 目指すまち① 都心に一番近い、のんびりできるまち

目指すまち② 安心して暮らしを楽しめるまち

目指すまち③ 歴史と文化が体験できるまち

・Aチームの発表を聞いて同じようなBチームの話した内容と同じような印象を受けた。それはやはり、三鷹に住んでいたり、働いていたりするため、同じようなイメージを持っているからだと思う。

・三鷹は既に暮らしやすい街であり、その特徴を継続していくことが大事。

・歴史と文化が豊富にあってそれが体験できるような機会があればいい。

・良い面、悪い面を話し合ってみたが、ネガティブな意見が少なかった。そういった中で、歩道の狭さなどが問題としてあげられた。

質問 Aチームでは歴史の話題がでなかったが、どのようなことを話し合ったのか。

・徳川家康が指定した鷹場が3つあった。新選組の近藤勇の碑が大沢にある。太宰治、森鷗外、国木田独歩など多くの小説家がいた。太宰治の記念館が駅前にあり、桜桃忌には多くの人が集まる。

5 閉会

→今日は多文化共生のまちについて広く話し合っただき、イメージがたくさん出たと思う。次回は、多文化共生のまちづくりの拠点となるような施設ができるとしたら、どのような機能が必要かを考えていきたい。これから三鷹で生活していて気づいたことや感じたことなどを次回のワークショップまでに考えておいてほしい。

・今回のワークショップで活発に意見を出し合い、みなさんは三鷹の魅力をたくさん知っていると感じた。その魅力を発信できるようになることが、多文化共生センターのアイデアとして出てくると思う。

以上